



世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「おはようございますー！！」

「おはよう、榎原君。相変わらず、元気だね。」

「部長、NY出張で時差ボケですね。」

「うーん、まー、歳だからな。。」

「これ、よかったらどうぞ」

「なんだ、これは？」

「時差ボケにとってもきく、ルミスペシャルです」

「榎原くんはやさしいなー。どれどれ、飲んでみようか。」

「ふほっ！なんだこれは。」

「目、覚めましたか？？榎原家特製のお茶です！栄養たっぷり、目覚めも最高なんですよ。」

「.....」

「あ、ところで今週もちゃんとやってきたか？」

「当然ですよ。部長がNYで羽根伸ばして、プイプイ言わせている間に、ゴリゴリ書いてました。」



今週の注目レポート・重要ニュース

日銀のサプライズ緩和発表で世界的株高に 日本企業の決算発表が本格化

■経済指標や重要イベントなど

【1.米国】

先週の米国市場は大きく上昇し、ダウ平均やS&P500は史上最高値を更新しました。企業の堅調な決算発表が相次いだほか、31日にサプライズで行われた日銀の金融緩和が市場のセンチメント好転を後押しした格好となりました。

1-1. FOMC（連邦公開市場委員会）

28日-29日にかけてFOMCが開催され、注目されていた実質ゼロ金利を維持する「相当な期間」



という文言はこれまで同様維持されました。労働市場についての見通しが引き上げられた一方、インフレについての見通しは引き下げられた格好となりました。

1-2. GDP

30日に発表された7-9月期のGDP速報値は前期比で年率換算3.5%と3%増程度だった市場予想を上回る堅調な内容でした。

1-3. ISM 非製造業景況感指数

5日はISM非製造業景況感指数が発表されます。日本の祝日である3日に先に発表された製造業景況感指数は59.0と前月の悪化を取り戻す好内容となりました。非製造業指数も改善できるかどうか注目されます。

1-4. 雇用統計

7日には10月の雇用統計が発表されます。特に注目される非農業部門雇用者数は、新規失業保険申請件数など労働市場の関連指標が堅調に推移していることから前月差20万人増を超える堅調な内容が予想されています。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

【2.欧州】

先週の欧州の主要株価指数は大きく上昇しました。31日に行われた日銀のサプライズ緩和による株高が欧州にも波及した格好となりました。

2-1. 独 Ifo 企業景況感指数

27日に発表されたドイツのIfo企業景況感指数は市場予想よりも大きな悪化幅となり、ドイツ企業の景況感の悪化に歯止めがかかっていない実態が浮き彫りとなりました。

2-2. ユーロ圏消費者物価指数

ユーロ圏の消費者物価指数は前年同月比0.4%の上昇と、市場予想と一致しました。欧州のデフレーション傾向は続いており、ECB（欧州中央銀行）の対応が注目されます。

2-3. ECB 理事会

6日にECBの理事会が開催されます。市場予想では今回の理事会では金融政策の現状維持を決める



公算が高いとされているようですが、黒田日銀がサプライズ緩和を演出した後だけに、ECB の対応にも一層の注目が高まりそうです。

【3.日本】

先週の日本株は日銀がサプライズで行った追加金融緩和を受けて大きく上昇しました。マネタリーベースの目標や ETF や REIT といったリスク資産の買い入れを大きく増やすことが好感され、追加緩和が発表された 31 日には日経平均が 755 円と大幅な上昇となりました。

3-1. 金融政策決定会合・展望レポート

前述のとおりサプライズで日銀が追加の金融緩和を発表しました。9 人の政策委員のうち賛成 5 人、反対 4 人と際どいところで追加緩和が決定されており、黒田総裁を始めとした執行部がやや強引に追加緩和に踏み切った格好となりました。

3-2. 消費者物価指数

9 月の消費者物価指数は前年同月比 3.0%の上昇と消費増税の影響を除くと 1.0%の上昇と、物価の伸びが鈍化している傾向が明らかとなりました。

3-3. 決算発表

今週も引き続き多くの企業決算発表が行われます。5 日にはトヨタ（7203）やサントリー食品（2587）、7 日には三菱商事（8058）や NTT（9432）などの決算発表が予定されています。

【4.中国】

先週の上海総合株価指数は上昇しました。上海と香港の相互取次について改めて期待が高まったことなどが買い材料となりました。

4-1. 中国製造業 PMI

3 日に発表された 10 月の製造業 PMI は 50.8 と市場予想を下回り、改めて中国景気に強さのない実態が明らかとなりました。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。



- [\[日本\] チーフ・ストラテジスト 広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [\[日本\] シニア・マーケットアナリスト 金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [\[日本\] フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [\[日本\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [\[日本\] 主要日本企業決算カレンダー](#)
- [\[米国\] 主要米国企業決算カレンダー](#)
- [\[米国\] 米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[中国\] 中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[その他\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

1. 日本（赤字が前回からの変更点）

日銀の追加緩和後の景気と、消費税率引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

2. 米国（赤字が前回からの変更点）

景気回復鮮明に。QE は終了。

3. 欧州（赤字が前回からの変更点）

ドイツの Ifo 企業景況感指数（10月）が予想よりも大きな悪化幅で欧州経済の成長鈍化懸念が更に強まる。ECB の今後の追加金融緩和に注目。

4. 新興国（前回からの変更なし）

中国のGDPが5年ぶり低水準で景気後退懸念は継続。今後の動向に要注目。

「今日のまとめは思ったよりよくできていたよ。」

「ありがとうございますー。ほめても何にも出てきませんけどね。」

あ、もしよかったら、こちらもどうぞ。これは朝のとは違ってとっても美味しいですよ。」

「ぶほっ、なんだ、これは。朝のよりまずいじゃないか。」

「「まずい」とは失礼な。これは、榎原家特製の二日酔い特効薬ですよ。部長、時差ボケじゃなくて、二日酔いでしょう！」



利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会